

登録データの利活用が始まった和歌山県がん登録室

和歌山県がん登録室は、和歌山県より和歌山県立医科大学へ委託され、2011年から和歌山県立医科大学附属病院内腫瘍センターがん登録室でがん登録業務を開始しました。登録室開始以前から院内がん登録の推進を県と連携して行っていたため、事業開始がスムーズに行えたと考えています。とは言え、時には片道3時間以上掛けて県内の医療機関に出張採録することもありました。現在では全国がん登録だけではなく、院内がん登録に関する県内医療機関からの問合せについても対応を行っております。

登録室が設置されている和歌山県立医科大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点でもあるため、登録室担当者は附属病院の院内がん登録担当者と連携・協力している点が特徴です。附属病院院内がん登録担当とがん登録室職員が連携して院内がん登録実務者研修会・全国がん登録実務者研修会の開催や、依頼のあった医療機関への訪問研修を行っています。

地域がん登録から全国がん登録となり届出が義務化されましたが、多くの医療機関にとっては年に1度の届出作業です。全部覚えろというものなかなか難しい部分もあります。全国がん登録実務者研修会では前年の届出を受け付けた際に疑義照会を行うことの多かった事例の紹介や、全国がん登録の届出を初めて行う新任職員向けの研修会資料兼マニュアルの作成・配布等を行っております。院内がん登録実務者研修会や情報交換会においては最近若手の実務者が増えた事を実感しています。



和歌山県がん登録室のメンバー

話は変わりますが、1年間に和歌山県でがんにかかると推定される人はおよそ8,200人、亡くなる人は約3,300人です。和歌山県は過去に75歳未満年齢調整死亡率がワースト2位になるなど、がんで亡くなる割合の高い県でしたが、近年では10位前後と改善傾向にあります。また、男性の罹患率・死亡率が全国平均に比べて高い傾向があります。

現在和歌山県では第3次和歌山県がん対策推進計画にがんの75歳未満年齢調整別死亡率を対2015年度比で15%減少させるという具体的な数値目標を設定しています。併せて「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」「患者本位のがん医療の実現」「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を個別分野項目の目標として掲げています。

「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」の方法の一つとしてがん検診の精度を高めるため、国立がん研究センターや和歌山市と協力し、検診受診者データとがん登録データの照合を行っています。科学的根拠に基づくがん検診の受診はがんの早期発見・早期治療につながり、また、がんによる死亡者を減少させるには、がん検診の受診率の向上と精度管理が重要です。検診事業について課題を探り、検診体制の充実につながればと考えています。

がん対策は精度の高い正確なデータに基づいて適切に行う必要があります。和歌山県がん登録室が、がん対策の効果的な推進を図れるよう今後も行政担当者と連携しながら業務を進めていきたいと思っております。